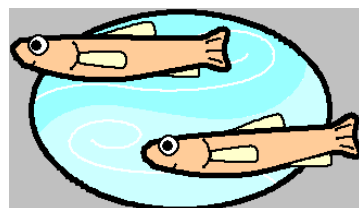


# しゅうれんかい (修練会) Q&A

公益財団法人豊島修練会 2015年9月4日号 (通算第1号)

## 子どもとの Q&A (ぎもんやしつもんのある子はすばらしいです!)

**Q** : ぼくは、近くの川でとった小魚を飼っています。でも、すぐに死んでしまいます。うまく買うにはどうしたらよいですか。(小学校3年)



**A** : 生き物を飼うときに大事なことは、自分が小魚だったら、どうしてもらおうと一番気持ちよく生活できるだろうかと、生き物の気持ちになって飼い方を考えてあげることです。

例えば、川に住んでいた小魚だったら、水は慣れたその川のものが一番です。川の水が手入りにくかったら、水道水を一晩おいて、なるべく自然に近い水にしてから使うようにしましょう。

また、川は絶えず水が流れているので、水がかき混ぜられ空気がいっぱい入りこんで入っています。エアーポンプで空気の泡を入れてあげるといいでしょう。餌は水が汚れない程度に何回にも分けてあげ、水草などを入れると、落ち着いて生活させることができます。

## 大人との Q&A (パパ&ママ、ジジ&ババもいつまでも好奇心を!)

**Q** : 5年生の娘は、あまり読書をしません。いろいろなことを知ったり、考えたり、間接的に生き方を体験したりさせたいのですが、どうしたら本を読むようになるのでしょうか。



**A** : おっしゃる通り、読書には、楽しむ、色々なことを知る、登場人物の生き方を学ぶなどの良さがあります。しかし、読書があまり好きでない子どもに、本を好きにさせるのはなかなか骨の折れることです。

まず、前提として大切なことは、読書を好きにさせたいと思う大人自身が、読書が好きであることです。もしそうでなかったら、好きになるように努力することです。子どもは、大人が本に親しんでいる姿を見れば、大

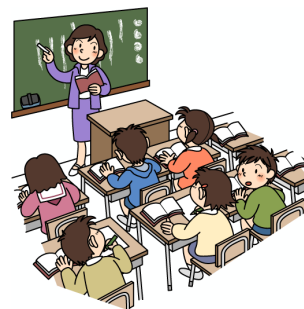
概は関心をもってくるものです。

次に、大人が本に親しんでいる姿を見せたら、その本から得た知識や考え方をちょっとした日常会話の折りに、話してあげることです。そうした会話の中から、子どもは、読書は、知識や体験を広げ、考えを深めていく値打ちのあるものだということを具体的に実感していきます。また、子どもが興味をもちそうな本を身近に置くなど環境づくりをしながら、子どもが少しでも本を読む姿を見たなら、大きくほめてあげてください。もし、子どもが嫌がらなければ、本の内容やその時の感想などを聞いてあげることです。その際、子どもがどんなことを話したとしても、感心して聞いてあげることが大事です。そうすると、子どもに、本を読んだことによる何らかの得意感・充実感をもたせることができます。付け加えるなら、小さい子どもには読み聞かせが効果的です。声に出して聞かせることで活字への抵抗を自然に和らげてくれます。皆さんのお子さんが読書好きの子どもになることを願っています。

## 学校の先生がたの Q&A (先生にもわからないことがある！)

**Q**：先輩から、板書をきちんとするよう言われました。板書は、何のためにするのですか。

**A**：板書には、①学習課題（問題）を示す、②考え方や仕方のヒントを与える、③実験・観察や作業の手順を示す、④資料を提示する、⑤考え方や仕方、気づいたことを紹介（発表）する、⑥学習のまとめをするなどの役割（機能）があります。本時の板書の役割は、①～⑥のどれに当たるかはっきりさせ、板書計画を大まかに立てるとよいと思います。



どのように考え方や仕方がまとまっていったのか見やすく書く、子供の「ノートの書き方のモデル」になっていることを意識することも大切です。時々、デジカメで撮影し自己評価すると、子供の反応や教師自身の指導の流れが分かり次に生かせると思います。

また、電子黒板を活用するなど、ICTの活用も積極的に進めてください。